

**企画提案募集に係る質問に対する回答票**  
(件名:令和8年度宮古島市児童育成支援拠点事業業務委託)

No.	質 問	回 答
1	児童育成支援拠点における想定利用児童数(1日あたり・年間)をご教示ください。	「宮古島市児童育成支援拠点事業業務委託 仕様書」 p1 「4. 支援対象者」 にて以下のとおりお示ししています。  ※登録者数は、20～30名程度(1日あたりの利用者5～10名程度)とする。  また、登録者数を年間の想定利用者数と捉えて頂いて差し支えないものと考えております。
2	支援対象児童の年齢層について、優先順位や想定割合があればご教示ください。	「宮古島市児童育成支援拠点事業業務委託 仕様書」 p1 「4. 支援対象者」 にて以下のとおりお示ししています。  『市内に住所を有する18歳以下の者であって、児童等本人若しくは当該児童等の保護者からの相談又は庁内の関係部署若しくは関係機関からの情報提供若しくは相談等により把握された～児童等』としております。 また、虐待のリスクアセスメントによって受け入れの優先順位は変わると考えております。  ただ、高校生までを受け入れの対象としていますが、アルバイトや塾など家や学校以外で過ごす選択肢が増えることも考えられ、主に、小学校・中学校の児童等の受け入れ多くなると想定されます。 併せて、本事業の対象年齢は主に学童期の児童を対象としています。利用が望ましい児童の就学前のきょうだいについても、養育環境に課題を抱えている可能性が高く、同時に受け入れるなど、柔軟に対応することは差し支えないものとしております。
3	既存の関係機関(学校、児童相談所、要保護児童対策地域協議会等)との連携方法や役割分担について、市の想定があればご教示ください。	「宮古島市児童育成支援拠点事業業務委託 仕様書」 p1 「5. 委託業務の内容及び方針」 にてお示ししています。 特に、『⑥学校、医療機関、地域団体等の関係機関との連携』『⑦児童等と保護者が抱える課題に対するソーシャルワーク』の内容がご質問の内容に対する市の想定と捉えて頂いて差し支えありません。  また、市の想定するソーシャルワークにつきましては、以下の想定としております。(宮古島市拠点型子どもの居場所の内容と同様) 子どもと保護者が抱える課題(子ども自身の特性、学校や家庭での生活、親の特性、就労状況や養育能力等)を包括的に理解するアセスメント、社会資源への仲介、調整等の支援が考えられます。また、ソーシャルワーク業務は、児童育成支援拠点事業で実施する他の支援項目(生活支援や食事の提供、学習支援等)におけるベースとなると考えております。 具体例としては、母子関係において、育てにくさを抱えている保護者に対し、子どもの要因と保護者の要因、環境の要因等のアセスメントを行った上で児童育成支援拠点が受け皿となりつつ、学校や医療機関、福祉施設、行政機関等と情報連携やその他調整を行います。また場合によってはアウトリーチ(家庭訪問等)支援も必要になると考えられます。
4	成果指標(KPI)や事業評価の方法について、市が重視する観点があればご教示ください。	成果指標や事業評価の方法としましては、年度中間の事業評価・実績報告に併せた年度末評価を想定しております。評価項目につきましては、「令和8年度宮古島市児童育成支援拠点事業業務委託 企画提案募集要項」 p6 「6. プレゼンテーション (3)評価基準」 にてお示ししています項目と同様です。  市が重視する内容としましては、「6. プレゼンテーション (3)評価基準」のうち、『4. 企画提案内容』の各項目となっております。